



地域おこし協力隊

山岸隊員インタビュー



6月で協力隊2年目を終える地域おこし協力隊の山岸隊員に日頃の活動や、南越前町での暮らしについて話を伺いました。

Q、日頃の活動について教えてくださいませんか？

まずは流動創生事業支援です。平成27年の開始以来200名超の方が町内に滞在しており、その後も何度も町に訪れては畑作業など人手に困っている地域の仕事をお手伝いしてくれている方も多くいます。また、自治体が行う事業としては画期的な面もあるので、全国販売の雑誌やテレビ等の取材依頼や東京でのイベントに呼ばれるなど注目度も高くなっています。そのなかで滞在希望者の対応や、地域仕事の調整、イベントの企画開催、拠点の整備、情報発信、戦略検討等してきました。

それ以外では例えば、いま全国的に地域おこし協力隊の採用が難しくなっていますが、地域おこし協力隊をいかに採用するか、いかに活動してもらうかなどを役場職員の方と一緒に考えたりもします。これで移住してきたのが中谷隊員や門田隊員ですね。彼らもまた新しいよそ者を連れてきて地域とつなげ、そのよそ者がさらによそ者を連れて…といった形になってます。

あとは、たまに広告物の写真を撮影に行くこともあります。

Q、活動するなかで難しいなと思うことは何かありますか？

先述の業務についていえば平成27年に開始してから順調に来ているように思います。何か事業を新しく始めて2年、3年で風景がパッと変わるなんてことはそうないので。

そのなかで課題を強いてあげるとすると、たとえば協力隊は最長3年の任期しかないので任期中に任期後の仕事や進路を踏まえた活動をする必要があるということ。そういったなかで、なかなかすべてのご依頼にお応えするのが難しいことです。

あとは、全国の地域おこし協力隊界限で言われていることですが、「地域おこし協力隊が何をしているかわからないと言われる。」とか、例えば地域活性化に対する考え方や立場による認識の相違とかですね。

ただどんなこと、どんな環境でも課題とか難しさ、“ハードル”があるのは当たり前で、うまくいかないと、わからない理由を環境や他人のせいにするのではなく、その状況に対して自分がどう工夫して解決するかですよ。[地域おこし]も同じかもしれませんが(笑)。

Q、これからさらにチャレンジしていきたいことはありますか？

これまでの活動にプラスして、さらに都市部在住者を巻き込んだプロジェクトを行っていく予定です。今後さらに日本の人口が減少していきますし、都市部に人が集中しているという状況が変わらないならば、やはり外の人を地域に絡める形が必要ではないかと思っています。

Q、では、南越前町での生活についてはいかがですか？

もともと地域おこし協力隊になる以前から商店街活性化とか起業支援だとか地域活性化に関わる仕事をしていて、そのなかで1年だけ流動創生事業のお手伝いをするということで南越前町に来ましたが、それが、気がつけばこれから3年目を迎えようとしています。

それはやはり生活の場や仕事の場で直接関わってくださっている方々に良くしていただいているからというところが大きいです。もちろん自然が多く、かつ生活に便利であるということも良いなと思う部分ではあるのですが、やはり「人」ですね。社会奉仕や運動会などの地域行事にも楽しく参加させていただいています。

限られた質問になりましたが、山岸隊員ありがとうございました！

■問合せ 観光まちづくり課 ☎47-8013